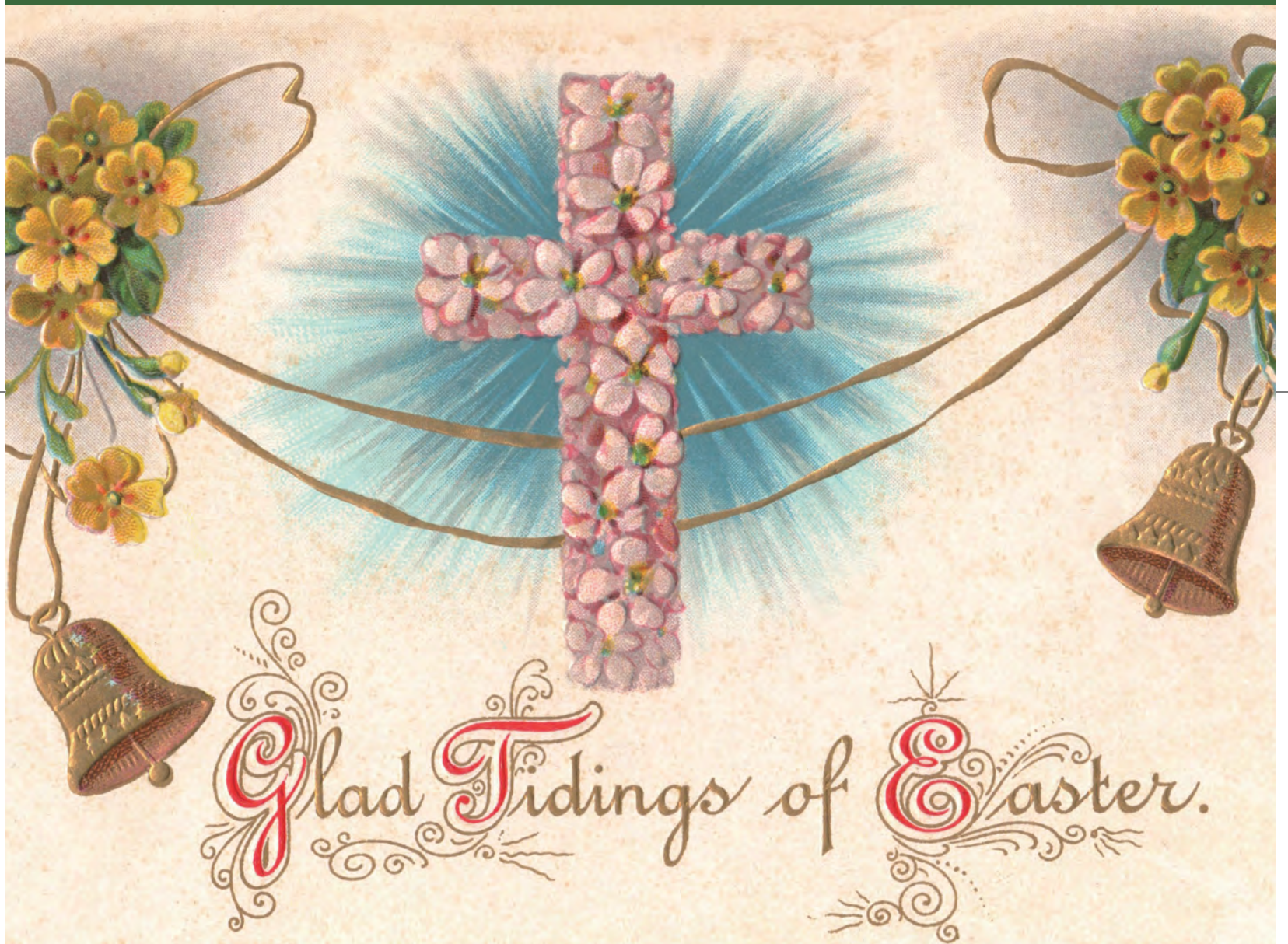


エステル

2025年
第39号

「何事でも自己中心や虚栄からすることなく、へりくだって、互いに人を
自分よりもすぐれた者と思いなさい。自分のことだけではなく、他の人のことも顧みなさい。」

新改訳聖書 ペリピ人への手紙 2章3-4節



「ハートフルトポス黎明期～ハートフルトポス前身の時代」

坪倉 正史

何事でも自己中心や虚栄からすることなく、
へりくだって、互いに人を自分よりもすぐれた者と思いなさい。
自分のことだけではなく、他の人のことも顧みなさい。

新改訳聖書 ピリピ人への手紙 2 章 3 ～ 4 節

『他者への敬意』

現代社会はSNSの普及もあり、匿名でどんな立場の人に対しても安易に批判し、侮り罵倒するなど自由放縦である。職員や入居メンバーにも、そのような社会の風潮の中で「敬う心」を身につけずに生きてきた姿を多く見る。責任を担う立場にある方への感謝や尊敬が見られない。互いに敬意を持たずに批判する。人生の中で相手の立場になって思いやることがなかったのかと呆れることがある。そういう自己中心な生き方は人間関係を破壊し、人生をつまらなくし大きな損失をもたらしている。それを今、リハビリフェローシップの中で語っている。

かくいう私も“しらけ世代”と言われる世代であり、安保世代、団塊世代の次の世代として、どこかしらけた世代である。「敬う」ことをないがしろにしてきた結果、「叱る、注意する、育てる」ことに躊躇し迷い続けている。

熱心に注意指導する気になれない、叱れない。それは私自身の姿であり、今に至るまで悩み苦しんで来たことだ。今更ながら、自分自身が無意識に、悪気なく、それを大切にしていなかったことを悔やんでいる。そして今改めて、立場ある人への「尊敬」、互いへの「敬意」という人として当たり前の「敬う心」を養い育てないと、教えないと、と痛切に感じる。

だからこそ、今、始めようと思う。

立場ある人を「敬う」ことを、互いに「敬う」ことを。

2025年5月恵日

特定非営利活動法人ハートフルトボス理事長 坪倉 正史

ハートフルトポス黎明期 ～ハートフルトポス前身の時代

坪倉 正史



1996年、私がキリスト教の牧師となり10年が経った頃、一人の青年に出会った。彼は高校時代にバイクで交通事故に遭い車椅子になったのだ。彼は生きる希望もなく、壊れそうな長屋の端で、荒れ果てた、散らかり放題の部屋に電気もつけずにいた。そんな彼にイエス・キリストの話をした。すると彼はみるみるうちに目を輝かせ始めた。話しが終わり、帰る私たちについて来て、気づけば教会まで来ていた。聞けば彼の実家は崩壊しており、彼はほとんど見捨てられているような状態であった。そんなこともあり、彼は、旧会堂に住まわせた欲しいと言ってきた。色々ありながらも結局、彼を旧会堂に住まわせることになった。まだその時は、ここから驚くべき展開が起ころうとは誰も想像だにしていなかった。

新生活を始めた彼は、早速、人生に行き詰まっている人を助けたいと車椅子で出かけて行った。しかも普段なかなか牧師が行かないような所へ。古着でぶかぶかの紫色の背広に身を包み、喜び勇んで颯爽と車椅子を走らせて行ったのだ。一人二人と旧会堂の住人が増えて行った。

刑務所の教鞭師の女性牧師からイエス・キリストのことを聞いていて、「出所したら必ず教会に行くのよ。」と言われていた青年。出所した彼は何とかやくざの世界から抜け出し、真っ当に生きたいと、もがきながらも半ばホームレスのようになり京都駅に住んでいた。(当時は京都駅にまだホームレスがいた。) そんな彼に「真っ当に生きたい

か?」「なら教会に来るか?」と声をかけたのだ。

次は同じく刑務所から出所した70代の男性。彼は誰よりも規律を守る人で、やくざ時代の名残か刑務所生活のそれなのか、早朝の祈りにも開始前から襟を正して正座で待っていた。

三人目は風呂に入れない青年。夏の暑い日が続く中、1ヶ月以上も風呂にも入らず、着替えもしていない汚く臭い身なりで現れた。彼が玄関に立った時、家中が悪臭で包まれた。これはたまらんと皆で銭湯に行くように説得したが、一筋縄ではいかなかった。数日かけて説得し、ようやく私が銭湯に連れて行くことになった。ほんと安堵したのも束の間、今度は出られない。身体を洗い、湯舟に入ってを延々と繰り返すのだ。17時に入り24時、銭湯閉館の時間になり、静かに蛍の光が流れ始めた。「なんとかしてくれ!」と心の中で叫んだ。

四人目は18歳で児童養護施設を出て、行く当てもなく彷徨っていた青年。五人目は子供の元をたらい回しにされた挙句、行き場所を失った初老のご婦人。六人目は生まれつきの糖尿病で視力も不自由な心身共に痩せ衰えている女性。七人目は精神障碍の父親。このように次から次へと、人生に行き詰まった人々が車椅子の彼によって呼び集められて来た。それはキリスト教会のボランティアとして始まった。私は、その旧会堂を「ベテスダの家」と聖書から名付けたのであった。

▶ 次号へ続く